

かわごえ産業フェスタ (2023/11/11、12) 取材報告

日本技術士会埼玉県支部 総務企画委員会

1. 活動テーマ : かわごえ産業フェスタ
2. 開催日時 : 2023年11月11日(土)~12日(日)
3. 開催場所 : ウェスタ川越(〒350-1124 埼玉県川越市新宿町1丁目17-17)
4. 主催 : かわごえ産業フェスタ実行委員会
5. 取材者 : 総務企画委員会 広報グループ 佐久間幹 (11/11 訪問)、宮崎優一 (11/12 訪問)
6. 取材の目的・背景
 - 支部会員の取組(西部地域小委員会が主となって参加した「川越城を偲んで」)を取材し、良かった点と改善点を明らかにして今後に反映する。
 - 見学者の視点で取材するとともに、産業フェスタ自体の催しや雰囲気調査し、今後の活動等に活かせるものがないかについて調査する。
7. 展示内容
 - 7.1. 川越城を偲んで 埼玉県支部 地域活性化委員会 西部地域小委員会
 - 川越城をCGで再現したものである。
 - 江戸時代当時の地形、現在の街並みとの比較を説明した内容で、当時の地形や建物の名残を実感する良い機会となっていた。
 - 城門から本丸までの道を実際に歩いているような視点でたどることができ、空中散歩のような視点の切り替えも可能であった。
 - 7.2. 特別講演:ヒト型ロボットについて (11/12 10:00 ~ 11:00)
産業技術総合研究所 情報・人間工学領域連携推進室 阪口 健 氏
 - ロボット/ヒト型ロボットの定義、歴史、これまでの課題やそれに対応してきた技術などについての説明があった。ロボット工学や現状の課題についての説明もあった。
 - ヒト型である理由と、建造物など大型構造物への対応について紹介された。
 - 7.3. その他、フェスタ全体について
 - 工業に限らず産業一般として、多くの近隣の企業や団体などが参加していた。商業用ドローンの実物などもあり、最近での運用方法などを聞くこともできた。
 - 高校生、大学生が主体となって展示しているブースがあり、会場全体も学生が多い印象を受けた。
8. 見学・取材の内容・所感
 - 8.1. 「川越城を偲んで」
 - 文化財を映像化して記録として残すとともに、観光資源として活用することの実証実験として、川越城をテーマとしたとのことであった。
 - 国土地理院の資料や既存のジオラマなどを活用し、今回の映像を作成したとのことであった。地理情報データを利活用し、3次元画像によって江戸時代の川越城を復元(科学技術を用いて見える化)するとともに、現在の映像と比較することで、街の変遷を視覚的に感じることができた。この技術は、観光資源としての活用、建築や土木に関わる地盤情報としての活用、自然災害の事前防災への活用等、発展が期待される。
 - 「昨年は川越市内(時の鐘周辺ほか)の映像を使った企画で、内容が子どもたちに好評すぎて順番待ちになってしまった、特に2日目は待ちが出るほどの盛況であった」とのことだった。今回もブースにお越しになった皆さんは満足して帰っていき、特に、歴史に興味深い方々には好評であったと感じた。
 - 展示映像の説明で、「とうりゃんせ」の元になったとされる神社が川越城内にあるとの

- ことで、歌詞の意味を深く知ることができ、新鮮な驚きも得ることができた。
- 将来的な郷土の資料や展示としての活用について質問してみたが、それに近い声掛けもいくつかいただいているとの回答だった。現時点では特に考えていないとのことだったが、取材していて期待されている内容であると感じることができた。

8.2. 特別講演：ヒト型ロボットについて

- 将来ロボット工学者を目指す若者に向けて、これからどのようなことを学ぶべきか、どんな進路があるかについて提示されていた。
- 「不気味の谷」や「フランケンシュタイン問題」などの用語に関する説明も多く、ロボットに関する基本的な知識をわかりやすく理解することができた。
- ヒト型であることの理由として、人間用に作られた環境への対応や人の身体のメカニズムへの活用など、様々な目的があることを知ることができた。
- 日本のロボット研究は世界的に見て遅れが出始めているという内容も紹介され、これは実際にロボット関係に関与していないと実感したり知り得ることができない内容であったため、とても考えさせられるものがあった。

8.3. その他フェスタ全体について

- 高校生対抗のロボット競技会や高校生・大学生が主体となって展示しているブースがあるためか、他の展示会などと比較しても会場内は学生をはじめとする若年層が多い印象を受けた。そのため、若い人たちが工業をはじめとする産業に触れるとてもよい場となっており、今後の展示内容を考える上でのターゲットとして、重視することを検討できないかを考えさせられた。
- 工業に限らず産業一般のイベントであったため、私たち技術士から見ても普段の工業系から離れて様々な分野との交流や知見を広げるにはとても良い場に成り得ると感じた。



会場の様子 1



会場の様子 2

写真撮影：総務企画委員会 佐久間幹、文責：総務企画委員会 佐久間幹、宮崎優一